

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第2回西脇市総合計画審議会	
開催日時	令和5年9月7日（木） 午前10時から12時まで	
開催場所	西脇市役所 大会議室	
出席委員の 氏名又は人数	17名	
欠席委員の 氏名又は人数	1名	
出席職員の職・ 氏名又は人数	市長・事務局7名	
公開・非公開 の別	公開	
非公開の理由	—	
傍聴人の数	4名	
議題又は 協議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 西脇市総合計画・後期基本計画に係る諮問について</li> <li>2 西脇市総合計画・後期基本計画の策定に当たっての基本方針について</li> <li>3 統計データ等から見た西脇市の現状について</li> <li>4 西脇市総合計画・後期基本計画の策定に係るアンケート調査の実施について</li> <li>5 外部評価の試行について</li> <li>6 その他</li> </ol>	
会議の記録（概要）		
発言者	<p>&lt;開会&gt;</p> <p>事務局 資料確認</p> <p>市長 審議会に御出席いただき感謝申し上げます。社会が大きく変化するこの節目の時期に、中長期的な視点を持ちながら変化にしなやかに対応していくことが持続可能な西脇市を築いていくために必要である。活発な議論をお願いします。</p>	
事務局		
市長		

事務局	<p>交代委員紹介</p> <p>1 諮問</p> <p>(市長から会長に諮問)</p>
会長	<p>2 会長あいさつ</p> <p>市には色々な計画があるが、総合計画は最上位の計画で、市の方向性を決めていく基本的な計画となる。市長からの付託に応えるため、委員からの意見をできるだけ多く頂戴し、市政に反映できるようなものにしていきたい。御協力をお願いする。</p> <p>(会議成立の報告)</p> <p>3 - 1 西脇市総合計画・後期基本計画の策定に当たっての基本方針について</p>
事務局	<p>資料 2・3 に基づき、事務局から説明</p> <p>(質問等なし)</p> <p>3 - 2 統計データ等から見た西脇市の現状について</p> <p>資料 4 に基づき、事務局から説明</p>
副会長	<p>資料 4 の 25 ページで、市の歳入は 200 億円程度との説明があった。国庫支出金などもあり増減すると思うが、総合計画の策定に当たり、どの事業に重点的に取り組むかについては、これから考えていくということによいか。また、歳出の目安もイメージして事業を考えることになると思うが、その基準として 200 億円を想定しているという理解でよいのか。</p>
事務局	<p>収入の見通しについては、別に「財政計画（収支見通し）」というものがあり、そちらで考えていく。現在は約 200 億円の歳入となっているが、人口減少に伴い基本的に減少していく方向と考えており、今の額を大きく超えるこ</p>

	<p>とは基本的には難しいと思う。ただ、将来世代にも負担いただくことが適切な大型のハード事業などでは、起債に伴って予算額が大きくなるなど年度によって変動もあると思うが、今後も堅実な財政運営が重要だと考えている。</p> <p>限られた収入の中で事業の重点化は重要になる。アンケート調査などで市民ニーズを把握し、重点化していくことになると考えている。また、今回、外部評価を試行的に実施するが、それらを反映することも含めて事業の見直しや再配分を考えていきたいと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>資料4の27ページで、西脇市の職員数は全国的にも非常に少ない水準だと説明があった。事務の効率化といった表現ではあるが、「数は力」という言葉もある。以前、大阪の自治体と関わることがあったが、職員は比較的ゆったりしていたように思う。職員数が少ないことがいいことなのかは疑問である。</p> <p>また、11ページにあるように、西脇市の産業・経済の状況はあまりよくない。</p>
<p>事務局</p>	<p>市町合併後の合理化を経て、職員数を大幅に削減する時期は過ぎたと考えている。一方で、こども家庭庁の設置に伴って業務が増えるなど、地方の仕事は増えている状況にある。住民に身近な地方自治体として、住民サービスを低下させることは望ましくないので、必要な業務に対しては職員をしっかりと確保することが必要と考えている。一方で、外部委託や広域連携によって効率化を進めているところもあり、今後も機能的な自治体組織をつくっていくことが大切だと思う。</p> <p>産業・経済の状況についてであるが、「働く場が少ない」という声はよく聞く。一方で、有効求人倍率は1以上であり、「希望する仕事がない」のが実情と理解している。特に若い女性は、専門性の高い事務系の仕事、企画系の仕事を望まれることが多いともいわれており、製造業に限らずに多様な産業の創出が課題になる。仕事や働く場は、地域の活力の維持や人口の維持に対して密接に関わってくるため大きな課題であり、規制緩和の活用なども検討しながら活性化に努めたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>資料4の9ページで、西脇市の医師数は阪神間に劣らな</p>

	<p>いというデータが示され、一見、医療関係では問題が少なく見える。しかし、例えば診療科に偏りがあるなど、課題もあるのではないか。ミスリードしないためにも、課題部分は示す必要があるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>苦しい現状が続く中、良い点も皆さんに知っていただきたいという思いもあった。北播磨地域では、小児科や周産期医療は特に課題となっている。幸い西脇市では確保できているものの、将来にわたって維持できるかは不透明である。また、地域の医療従事者の高齢化なども懸念される。</p> <p>アンケートでも医療に対する市民の期待は高く、引き続き課題部分も明らかにし、考えていく必要があると考えている。</p>
委員	<p>第4章は教育・文化・スポーツとのことだが、学校の統合について記載がないのはなぜか。</p>
事務局	<p>基礎資料集は現状のデータ、統計的なデータを整理したものであるため、学校の統廃合については掲載していないが、学校数やクラス数、児童・生徒数の推移といった基礎データはお示しする予定である。</p> <p>統廃合については、現在、教育委員会でも議論されているが、その成果・結果などが総合計画に反映されていくと考えている。</p> <p>現在の想定になるが、子どもの数が減り、一定の教員数が確保できないという大きな流れの中で、次期総合計画において、学校を統廃合していくという方向性を示していくことになると考えている。</p>
委員	<p>医療に関連して補足する。西脇病院と大山記念病院では、診療科のばらつきはあるものの、十分な医師数が確保されていると認識している。一方で、内科系の一般診療所では医師の平均年齢が65歳を超えており、耳鼻科などの専門的な診療科は現状でも少なく、高齢化も進んでいる。後継者の確保も難しい現状である。</p> <p>行政には、医師の子どもたちが戻ってきたくなるようなまちづくりを頑張っていたきたい。</p>
事務局	<p>西脇病院では、近隣で生まれ育った方が西脇病院で勤務</p>

委員	<p>するといった例もあると聞いている。こうした循環をつくっていくことが大切である。医師確保の施策だけでなく、年少期からの教育も大切な視点ではないかと感じる。</p> <p>やはり働く場所が少ないことが課題だと思う。100人が市外へ出ると、将来的にはその家族を含め、400人が減少といったことになると思う。</p> <p>現在、市街化調整区域の撤廃が検討される中、工業団地など、人口流出を食い止められるような場所ができてほしい。</p>
事務局	<p>市街化調整区域の撤廃については、都市計画担当で調査・研究をしているところである。アンケートでも働く場については関心が高く重要な課題であるが、市街化調整区域を撤廃しても農地などの別の規制もあり、できること・できないことはあると思うが、引き続き考えていきたい。</p> <p>一方で、日本全体で人口が大きく減少する中、外国人の受入れなどをしない限り、人口増には自治体間での奪い合いをせざるを得ない状況になる。子どもや子育て世帯などへの重点投資が重要となってくるが、高齢化も進んでいく中で、今、西脇市に暮らしている方に豊かさを感じながら暮らしてもらおうという視点も大切だと考えている。</p>
会長	<p>データは非常に重要で、データやファクトに基づいて様々な施策を行っていく流れになっている。事務局では、様々なデータがある中から分析を行い、さらにその一部を本日説明いただいたと思う。データは見方によって、全く違うように映ることもある。例えば、割合と絶対数のどちらが本当の意味を持つのか、丁寧に考える必要がある。今後の政策に生かしてほしい。</p>
事務局	<p>3-3 西脇市総合計画・後期基本計画の策定に係るアンケート調査の実施について</p> <p>資料5に基づき、事務局から説明</p>
委員	<p>国全体でデジタル化を進める方向と思うが、西脇市も同じ方向を目指すという理解でよいか。先日ロンドンを訪れた際、地方部でも高齢者でもデジタルを利用されていた。</p>

事務局	<p>日本の高齢社会の中で、本当にこのようになって上手いくのか疑問もある。優しいまちづくりという意味では、年配者にも配慮して行ってほしい。</p> <p>どのようにデジタル化を進めていくか、どう実現していくかはこれから考えるという段階である。市内の経済活動が一気にキャッシュレス化するというようなことまでは想定していないが、長期的には起こり得ることと思う。</p> <p>高齢化が進む中、国もデジタルの利便性から取り残される方が多くいる点は懸念している。国のデジタル田園都市国家構想の政策の柱の一つに「誰でも使えるようにする」というものもあり、例えば、マイナポイントのポイント付与支援サービスのように、支援を丁寧にしていくことも大切だと思う。</p>
委員	<p>資料3の3ページで高校生アンケートと書いてあった。小中学生や高校生には、このような複雑なアンケートではなく、小学生や中学生が描く未来像など、ワークショップのようなかたちで行う方がいいのではないかと。西脇が好きという子どもたちは多いと思うが流出しているのが現状であり、どうすれば住みやすいまちになるか、住み続けるためにはどうしたらいいのか、など子どもたちの素直な気持ちや考えを聞くと良いのではないかと。</p> <p>人口が減少する中、地域参加型の行政を行っていくことが大切だと思う。</p>
事務局	<p>基本構想策定時には、子どもたちの望むまちの姿について聞くことも必要だと考え、当時、中学生や高校生にアンケートを実施した。西脇のことが好き、豊かな自然が誇らしいという声もたくさんいただいたと記憶している。</p> <p>中学生では、大きな商業施設への期待があり、一方で将来のことは「わからない」という答えが多く、高校生になると自身の将来などもイメージしている傾向があった。こうしたことを踏まえて高校生へのアンケートを検討しているが、教育委員会とも相談してみたい。</p> <p>また、より小さな子どもも含めて、西脇の未来などをテーマにした話し合いができないか考えているところである。委員がおっしゃったように、話しやすい雰囲気の中で子どもたちの声を聴くことができないか検討してみたい。</p>

<p>会 長</p>	<p>資料3の4ページにWSとある。これがワークショップのことだと思う。昨年、別の自治体で小学生から高校生までを集めたワークショップを行ったが、事務局が基本構想策定時に聞いた意見と同様の傾向だった。</p> <p>改めて、子どもたちのふるさとに対する想いが強いとわかった一方で、どこかのタイミングでこの想いが薄れ、市外へ流出し帰ってこなくなるのが課題と思った。</p>
<p>副会長</p>	<p>今回のアンケートの回収率の目標は。また、基本構想策定時のアンケートの回収率はいくらだったか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本市では、毎年実施している市民アンケートと計画策定時のアンケートがある。市民アンケートの回収率は45～50%程度、基本構想策定時のアンケートの回収率は36.6%であった。計画策定時のアンケートは量も多く、内容も難しいことから回収率が低めになる。今回のアンケートでは、前回と同水準、できれば上回ることを目標と思っている。</p>
<p>副会長</p>	<p>ウェブからも回答できるようである。デジタル化の項目など、ウェブと紙面で回答傾向が異なるのか関心がある。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回の調査ではウェブ回答を試みたいと考えている。ただ、市ではいくつかの調査でウェブでの回答を併用したが、回答の絶対数が少なく、今回のアンケートでも同様の傾向が予想される。回答数が少ないと統計的に有意とはいえないため比較は難しいが、回答数が多くあれば比較してみたい。</p>
<p>副会長</p>	<p>回答者の属性について、「お住まいの地区」の図の視認性がもう少し高くなるような工夫があれば間違いも防げるのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>御指摘いただいたとおり、図柄を入れるなど工夫することで視認性を高めることができないか考えてみたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>特に野村地区と重春地区の範囲が分かりにくいように思う。</p>

事務局	住所が野村町の方は野村地区で、和田町など7町が重春地区になる。お住まいの地区名がわからない方には、町名の記載でも回答できるようにしている。
会長	6ページ以降、現在の満足度と今後の重要度を尋ねていると思うが、どういった分析方法でどのような使い方をするのか伺いたい。前回も同様の方式か。
事務局	<p>満足度と重要度の高い方を5点、低い方を1点として合計点を算出し、回答数で割ることで平均点を出したいと考えている。また、満足度と重要度の高低の組み合わせから4区分に分けられるため、マトリックスの図をつくることで、政策として、どこに重点ポイントを置くかという分析をしたいと考えている。さらに、前回も同様の方式で調査しているため、前回から満足度と重要度がどのように変化したかを比較したいと考えている。</p> <p>3 - 4 外部評価の試行について</p>
事務局	資料6に基づき、事務局から説明
副会長	事業評価シートで用いられる言葉について、「改善」と「見直し」、「休止」と「廃止」がそれぞれ並んでいるが、並列の関係かどうか少し疑問に感じている。また、外部評価としての事業評価シートのため、「見直し」という表現が適切ではない可能性があるのではないかと。
事務局	平成20年代初期から庁内で事務事業評価を実施してきた。内部ではこの言葉を用いてきたが、今回は外部評価ということもあり、御指摘の視点のほか、もう少しわかりやすくできないかといったことも含めて改めて検討し、次回までに答えをお示ししたい。
副会長	今年度は4つの事業を対象にするとのことであったが、将来的にはどの程度の数を対象とする見込みか。
事務局	これまで実施してきた内部評価（二次評価）は、おおむね10事業程度であり、外部評価でも10事業程度を対象にできればと考えている。1事業当たりによする時間など、今



<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>年度の試行の結果を踏まえ、可能な範囲で増やしたい。なお、今回の対象事業は令和元年度・2年度に開始した新規事業から選んでいる。来年度以降については、令和2年度・3年度の新規事業のほか、財政課が事業評価の対象として委員の御意見を伺いたいと考える事業も加え、10事業程度が理想と考えている。</p> <p>基準等の説明に評価ポイントとして1つの項目に対し5つの基準が示されている。基準の選択肢と選択肢の間に隙間がないようにすることが重要である。隙間があるよりは少しオーバーラップさせて、どちらかを選択すればカバーできるという状態の方がよい。そういった視点で選択肢も見つめ直すとよいと思う。</p> <p>4 その他</p> <p>活発な御意見や御質問をいただき感謝申し上げます。  次回は、冬頃の開催を予定している。引き続き御協力をお願いしたい。</p> <p>&lt; 閉会 &gt;</p>
<p>問合せ先</p>	<p>西脇市市長公室政策推進課  TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014</p>